

## 第2次ボランティアとして12人で石巻に支援に行ってきました



日向山公園に掲げられたお礼の横断幕

みなさんから50万円の募金、80キロのお米、タオル、自転車等が寄せられました。

引き続き、被災者支援と復旧・復興への支援が必要です。

2011年8月5日

日本共産党港区議会議員：風見利男

7月21日～24日、石巻市・東部地区委員会：震災・救援対策センターに、第2次の支援に区議団3人（大滝、熊田、風見）を含め12名が行ってきました。今回、4名の若者が参加しました。

今回は、是非とも「泥だしの仕事を」と、思って参加しましたが、「無料青空市」（お届け隊）中心の支援活動になりました。

今回は、レンタカー（ワゴン車：前は荷物車だったので大変な思いをしましたが、今回は乗り心地の良い車でした）と2台のマイカーでの参加、みなさんからお寄せいただいたお米や衣料品などを軽トラックに積み込み込んだ後、12名が3台の車に分乗、石巻めざして地区委員会前を21時に出発。5時頃には事務所前に到着しました。

### 今回行った主な仕事

1. 党市議団の提案で実現した、「仮設住宅の玄関に網戸設置決まる」の「石巻民報」を入居がはじまった仮設住宅に、一軒づつドアをノックしながらお知らせする。
2. 全国から届いた支援物資の仕分け作業。
3. お届け隊の準備作業。（お米を小分けしたりする）
4. 無料青空市場（お届け隊）の開催。

### 「玄関に網戸設置決まる」ビラを届けて

\*石巻市議団の提案で、県の責任で仮設住宅の玄関に網戸が設置されることが決まり、いち早く居住者に知らせるビラが完成。仮設住宅に行き、一軒一軒、「網戸の設置が決まりました」と声をかけながらビラを渡しました。会えたところでは、どこでも喜ばれました。

仮設住宅に入居できて喜んでいる反面、買い物が



不便、病院への交通機関がわからない、シャワーを改善してほしい等々、様々な要望が寄せられました。その要望は、市議会議員に伝え、対応してもらうようにしました。

### 全国から届いた支援物資の仕分け作業

\*全国各地から、様々な支援物資が届きます。今回、港区民から、お米、タオル、バスタオル、衣類、石けん、自転車等々、たくさんの物資が寄せられました。(今回いただいた募金でお米や野菜を買って届けました。)それを「無料青空市」(お届け隊)でみなさんが選びやすいように、また、持って行きやすいように種分けが必要です。「女性用の服」、「子ども用の服」「男性用の服」、「タオル」、「バスタオル」等々、それぞれダンボール箱に分ける作業です。届いたダンボール箱を開けると、様々な品物が一緒に入っているため、種分けも結構大変です。ダンボールがいっぱいになると、品目と日付を書いて分類ごとに積み上げていきます。これなら持ち出しも簡単です。

全国から、毎日届く物資を種分けする作業も大変だと思いました。種分け作業なら、年齢に関係なくできる仕事なので、いろいろな方に参加してもらいたいです。

### お米を約2キロ毎に種分ける作業

\*無料青空市(お届け隊)で配るお米を約2キロ毎に袋詰めします。前回の時もやった仕事なので、今回もスムーズに作業が進み、港区民からお寄せいただいたお米や、全国から届いたお米の山が、見る見るうちに小分けされていきました。12名が、2キロに仕切る人、ビニール袋を開く人、2キロのお米を袋に受ける人、袋を縛る人、箱詰めする人などを分担しました。

\*それにしても、共産党を通じてお米をはじめとするたくさんの物資が、間断なく届きます。共産党に対する信頼があればこそだと思います。大変ありがたいことです。

### 無料青空市(お届け隊)は大好評

#### 高齢者から子どもさんまで大勢の方々

\*23日の午前中は、三浦市議団長と一緒に、2カ所の仮設住宅に行きました。この2カ所ともに比較的規模の小さな仮設でした。

集会場前にブルーシートを敷いて、品物を並べます。準備が整ったところで、三浦市議団長がハンドマイクで「青空市」の案内をして回ります。

仮設住宅のドアが開いて次々に住民が出てきます。野菜など食料を受け取った後、日用品や、自分や家族の衣類を選んでいました。



仮設住宅での青空市

三浦市議団長と親しくしていた人もいて、お互いに懐かしそうにしていました。

ここの仮設住宅は、22日に「網戸ビラ」を手渡しで配ったところでしたので、先方から「昨日はどうも」と挨拶され、知り合いにあった気分でした。

午後からは水沢市議会議員と一緒に、550戸の仮設住宅が建設された、石巻トゥモロービジネスタウンの仮設住宅に「お届け隊」に行きました。10棟並ぶ仮設住宅にブルーシートをひろげ、野菜、日曜雑貨、衣服を並べ、市議がハンドマイクで「無料青空市」を案内すると、各棟から、ぞくぞくと人が集まってきました。乳飲み子をだっこしたお母さん、子どもの手を引いたお父さん、杖をついた高齢者の方々、150名はいたでしょうか。「全壊して何もかもなくなってしまった」、「家は半壊だが、帰れそうもない」、深刻な話をしてくれました。ただ、避難所から仮設住宅に移れたことでの、安心感も感じている様子でした。

しかし、仮設住宅に入ったことによって、お弁当などの物資の支給がなくなり、電気代などの光熱水費が自己負担になります。津波で何もかも失った（ローンの支払いなども）上に仕事もなくなった人たちはどうすれば良いのでしょうか。政治が果たすべき役割がきわめて重要です。

### 南三陸町、雄勝町、女川町に行ってきました

帰路、南三陸町、雄勝町、女川町の現状を見てきました。

南三陸町は、海岸からかなり距離のある山沿いの民家のある地域まで津波で運ばれたんでしょ漁船がありました。



志津川病院

志津川湾から200メートルくらいでしょうか、4階建ての町立志津川病院がありますが、4階まで津波が押し寄せたのでしょうか、目を覆いたくなるような状況、惨状です。南三陸町から女川町に向かう海岸線は、地震と津波で道路が破壊された爪痕が残っていました。この海岸線は、大変に風光明媚なところです。地震、津波がなければ海水浴客でいっぱいだったんでしょ。

南三陸町から女川町に行くには北上川を渡らなければなりません。ところが北上川に架かっていた新北上大橋が地震と津波で破壊され渡れないため、かなり遠回りを余儀なくされました。この橋のたもには、みなさんもテレビなどで記憶にあると思いますが、大川小学校があります。たくさんの花束とお線香がたむけられていました。

女川町は、前回来たときよりも、破壊された建物の撤去が進んでいました。屋上に車が打ち上げられたビルや女川消防署の庁舎も撤去されていました。こういう中でも、漁船が動き出していました。人々の生きるたくましさを感じました。

南三陸町から女川までの山間（やまあい）には、いくつもの仮設住宅が建設されていましたが、買い物などはどうするのか、車がなければ何もできないのではと思いました。きめ細やかな支援策が必要ではないでしょうか。

## 第2次石巻ボランティアに参加して

\* 網戸設置のお知らせビラを持っての訪問や、お届け隊を通じて、共産党に対する期待の強さを、ひしひしと感じました。

\* 水沢ふじえ市議会議員ら現地の方々の表情が、前回行ったときよりも数段と明るくなっていたのを見て、復興に向けて、一步一步だけれども前進していることへの確信だと思いました。それは、全国の共産党と支援者の支えがあったればこそだと思います。

\* 全半壊した建物の撤去も一定すすみ、ガレキも場所を決めて集められてはいますが、ガレキの行き先も（処分場）決まっていません。復興はまだまだ長い時間がかかります。



\* こういう状況の中でも、前回全く開いていなかった商店街に、魚屋さんや、美容院、衣料品店などのお店が開いていました。また、漁港では、何隻もの漁船が動きだした様子を見て、復興への強い息吹を感じました。市民のみなさんの努力で復興の息吹が

でていますが、政治の果たすべき役割の重要性が今一番求められています。民主党と自民党、公明党などのみにくい足の引っ張り合いは、いい加減にすべきです。

日本共産党の果たすべき役割がいつそう重要になっています。

\* 国は当然のこと、国民の総力を挙げての、引き続きの支援が必要です。この間、2回のボランティアの派遣に多くの方から、募金、お米、バスタオルやタオルなどをお寄せいただきました。被災者のみなさん方に、しっかりとお渡ししました。みなさん、本当に喜んでいました。長い期間の支援が必要です。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



打ち上げられた船